

2019年度 トコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2020/9/23

団体名		公益財団法人住吉隣保事業推進協会		活動タイトル		みんなで作って食べよう！ 寿こども料理食堂		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）						■ 活動風景		
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)		こども達が家庭環境に関わらず、生きる力やさまざまなことに興味を持ち挑戦する力を育む環境が地域でも必要だと考える。また、保護者だけが子育てに携わるのではなく、地域全体でこどもを育てていく意識を持ち、声掛けや見守りができることで孤立や犯罪被害者になることを防ぐことが望ましい。				アジの三枚開き 寿こども料理食堂の活動の一環で魚を捌くことに挑戦した小学校高学年生徒達 		
●団体の社会的役割(ミッション)		当団体では「寿こども料理食堂」を中心に、こども達が調理を通して自身で調理する技術を身に付けたり、食への興味をつける。調理や食事をするこ、稲刈り・田植えなどの活動をともに経験することで生きる力や他者とのコミュニケーション能力を育む。 また定期的に活動続けることにより、こども達だけでなく地域住民やボランティアが安心してなんでも相談できる居場所をつくる。地域住民やボランティアとつながること、顔見知りの関係・見守りシステムを構築していく。その見守りシステムをもとに、地域でのDV家庭の早期発見・こども達の孤立・犯罪被害者になることを防ぐ。						
●団体の活動基盤		・人材育成の確保と育成：年に2回ほど、近隣の大学にてゲストスピーカーとして講演し、取り組みに興味を持ってくれる学生の確保を行う。また、参加してくれた学生・その他ボランティアに対しては、より細かな研修会等を行い、運営を担える人材を育成する。 ・物的資源：食材は個人の方や、企業、ふーどばんく O S K A などのルートがある。その他の物品については、社会福祉協議会や住吉区こども食堂連絡会などと連携を取りながら確保をしていく。 ・活動資金に関しては、参加者収入8割：寄付金2割をめざしていく。 ・活動で得たノウハウは、自団体で共有するとともに、他団体の研修会やこども食堂連絡会等で活用していく。						
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況			休校中の昼食支援 こども達がお弁当を持参したタッパに詰め替えている様子 		
【1】寿こども料理食堂 こども達が調理することで調理技術の向上をめざし、日頃から顔の見える関係を築くことで安心できる居場所の提供をおこなうことができた。(月2回) ＊新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月以降はこども達が調理をすることは中止。 【中止】田植え・稲刈り「自然体験交流会」 こども達やボランティア自身で食材を植え、刈ることにより、いつも食べている食材の生産過程を知ることを目的に企画をしたが、台風や新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。 【2】休校中の昼食支援 休校期間中の平日、社会福祉法人ライフサポート協会や他団体と連携し、こども達の昼食支援（弁当受渡し型）および見守り支援を行った。 【3】ボランティア研修 ボランティアが活動への専門性などを身に付け、企業などにはこども支援への理解を促進するためのボランティア研修会を行った。 【4】活動基盤の強化 助成期間が終了後も当事業を継続できるよう、他団体や個人の方に寄付のお願いを行った。			【1】寿こども料理食堂 「寿こども料理食堂」を22回開催し、参加者のこどもは295人、ボランティアは64人であった。(延べ人数) また、こども達の調理技術が格段に向上しており、魚を捌くことや、煮物・揚げ物ができるようになってきている。またコロナ禍においては、食事のみの提供になっているが、定期的にこども達は参加している。 【2】休校中の昼食支援 3月～5月、8月の夏休み中（59日間）、27人のこども達に対して、延べ1240食の昼食の支援をおこなった。今回の昼食支援をきっかけに新しく繋がりが持ったこども達が3人おり、そこから家庭の支援へとつながることができた。また、こども達自身に関しては、既存事業の「寿こども料理食堂」や自主学習支援事業である「住吉べんきょう会」にも参加ができるようになっており、継続した支援ができていた。 【3】ボランティア研修 講演会を7回実施し、745人に「こどもの居場所」や「コロナ禍でのこどもの支援」という内容で実践報告をさせていただいた。企業の視察、NHK放送大学の取材の受入なども行った。 【4】活動基盤の強化 物品寄付は50件、また、寄付金は10万6千円集まった。					
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題			■ 活動成果のアピールポイント		
●2020年9月～2月までの寿こども料理食堂では、通常の活動に加え、他団体と一緒にこども料理食堂を開催し、こども達はブラジル料理を作ったり、アジの開きに挑戦したりとさまざまなことに挑戦できた。また、12月には地域で行われている「コモン喫茶クリスマスパーティ」にも参加し、こども達が調理した料理を参加者に提供することができた。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校が休校になった際は、(社福)ライフサポート協会の協力を得て、平日50日間で27人の支援が必要なこども達に1049食の昼食を提供し、見守りがすることができた。また、事態の改善が見られなかったため、夏休み期間の9日間にも同様に25人のこども達に191食の昼食を提供した。 これらの活動に関して、企業の視察や実践報告、こども食堂に携わるボランティアの研修会に講師として事務局が呼ばれることが多くなり、そこから寄付をしてくださる団体や個人の方が増えてきている。			当法人がめざす望ましい社会状況は、こども達が家庭環境に関わらず、生きる力やさまざまなことに興味を持ち挑戦する力を育む環境が地域にあること。また、保護者だけが子育てに携わるのではなく、地域全体でこどもを育てていく意識を持ち、声掛けや見守りができることで孤立や犯罪被害者になることを防ぐことである。 今回、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、感染拡大予防のため学校が休校になった際には、家庭環境によってこども達の生活が大きく左右されることを目の当たりにした。学校給食や学校が第一の居場所だった子ども達にとっては、学校に代わる第二の居場所が必要であった。しかし、当法人も非常事態宣言中は事業を縮小し活動をおこなっていたため、人員不足・資金不足などの影響でなかなか全員に支援を行き届けることは困難であった。そんな中でもつながったこども達と今後も繋がりが続けることが大事だと考え、これからも引き続き臨機応変に活動を継続していきたい。			この1年間の活動を通じて	寿こども料理食堂を22回開催、295人のこどもの参加 休校中の昼食支援を51日間実施、1240食を配布 寄付金額10万円	を達成しました。
						■ 受益者の具体的な変化（自由記入）		
3年間の活動を通し、こども達は調理の準備から、切る・焼く・煮る・揚げるなどの調理技術が身についてきた。 また、不登校なこども達が昼食支援に参加してくれ、そこから学習支援などの取り組みに参加してくれた子が3人いた。								